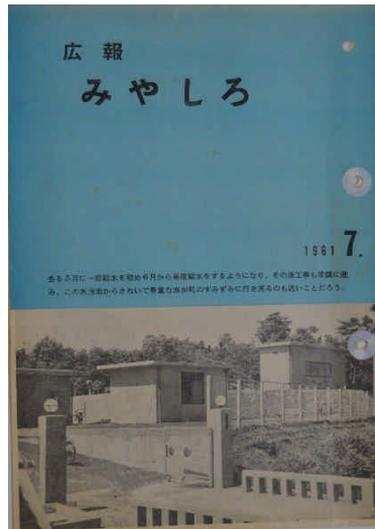
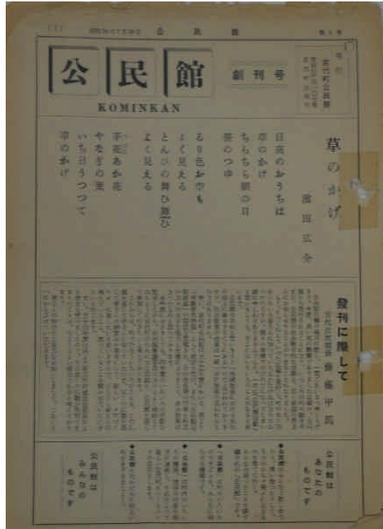


平成30年度第1回企画展

# 広報みやしろ

～発信された宮代あれこれ昭和編～



平成30年5月12日(土)～7月8日(日)

宮代町郷土資料館

# ごあいさつ

広報みやしろは、昭和34年7月20日に「公民館」というタイトルで創刊されました。本紙に掲載されている齋藤甲馬町長の挨拶文によると、いろいろな町の動きや公民館の社会的教育活動を広く知ってもらうために発行したのが始まりのようです。第5号から「広報みやしろ」と名称が変更され、第550号となる平成30年5月号が発行された今日に至るまで、町で生活する上で欠かせない様々な情報を提供しています。

歴代の広報を読み返してみると、話題となっていた出来事や取り組んでいた事業、写真などがあり、当時の町の様子などを知ることができます。また、広報みやしろ自体も時期によって記事の内容やレイアウト、発行頻度などが変化しており、その変遷をうかがうことができます。

今回の展示では、創刊号から昭和年間に発行された広報みやしろを中心に紹介し、掲載された記事の中から文化財、町民生活、催事などに注目し、関連資料と共に広報みやしろの変遷や宮代町のあゆみを振りかえります。この展示を通じて、町が歩んできた歴史を一層身近に感じていただければ幸いです。

最後に、これらの貴重な資料をご提供くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

宮代町郷土資料館

～凡例～

1. 本書は、平成30年5月12日（土）から7月8日（日）まで開催される、宮代町郷土資料館平成30年度第1回企画展「広報みやしろ～発信された宮代あれこれ昭和編～」の展示図録です。
2. 展示開催期間中の休館日は次の通りです。  
5月14・21・28日、6月4・11・18・25日、7月2日
3. 展示の企画及びポスター・図録の執筆、デザイン、編集等は宮部俊周（当館学芸員）が担当し、横内美穂（当館学芸員）が指導・補佐しました。資料の写真撮影及び編集は横内美穂が担当しました。
4. 図録の構成は、展示内容と異なります。また、掲載した写真の大きさは任意のものです。
5. 会場及び本書中の敬称は省略させていただきました。
6. 資料提供・協力者一覧（五十音順・敬称略）  
青木秀雄・伊草侃斗・金子とし恵・五社神社・島村繁夫

## 1章：広報みやしろのあゆみ

昭和34年から発行された広報は、町の情報を発信し続けると共に、より読みやすく親しみがあるようにするなどの創意工夫が施されてきました。初期の広報だけ見ても、第3号（昭和35年発行）より写真の活用が始まり、第5号（昭和36年発行）からは親しみやすいタイトルとするために「広報みやしろ」に題名を変更、またページ数を増量したりカラーの使用を開始したりなどしており、発行する度に改善を意識しているようです。創刊号で町長は「この広報を通じて皆様のご意見を参考にして新しい町づくりに資したい」と語っており、当時からすでに町主導ではなく、町民と一体となって取り組んでいくという意思がうかがえます。その後も広報は町の発展に即した形態へ進化していきませんが、記事の内容や構成がおおよそ規格化されたのは毎月1回の発行となった第66号（昭和53年発行）からです。

ここでは、創刊号や題名変更があったなどの特徴的なものを取り上げ、そのあゆみと構成について紹介しています。

### 広報みやしろとは

広報みやしろは、昭和34年7月20日に「公民館」というタイトルで創刊された広報紙です。創刊号は全4ページで、白黒印刷でした。発行については、創刊号掲載の挨拶文に「長い間の懸案でありました広報が、公民館から発行されることになり、いろいろな町の動きやまた、公民館の社会的教育活動を。広く家庭の皆さんにお知らせすることができることになりました。」とあります。当時はまだ、現在のように建物はありませんでしたが、「町のいろいろなできごとを、みんなに知らせる機関」と表現していて、町におけるひとつの担当部署のような存在であったようです。昭和36年7月に発行された第5号からはタイトルが「広報みやしろ」に変更となりました。編集後記には「公民館では題名がかたすぎはしないかという声を前々から聞いていましたので、いろいろ考えた末今年度表題のように広報みやしろとかえてみました」と理由が記されています。また、「記事が公民館関係だけでなく、これまでも町の関係記事をのせてきましたので、かえてこの方がいいのではないかと自己評価もしています。

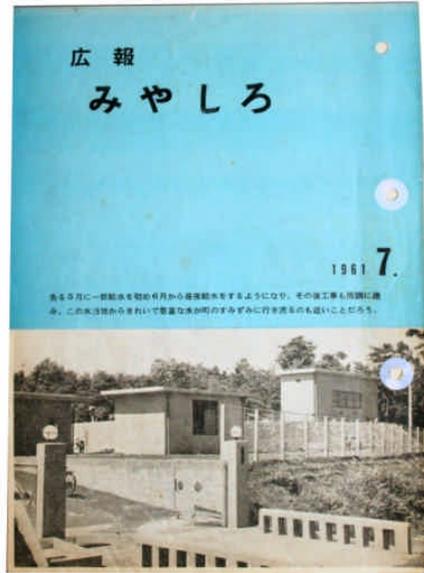
創刊号から第65号までは発行ペースが不定期であり、年に1回しか発行されなかった場合もあります。しかし、号外版が発行されていたりもするので、町民へ速報を知らせる場合は優先的に発行していたようです。昭和53年1月に発行された第66号からは月1回の発行になります。以降、町で生活する上で欠かせない様々な情報を発信し続けています。



### 公民館創刊号

昭和 34 年 7 月 20 日発行

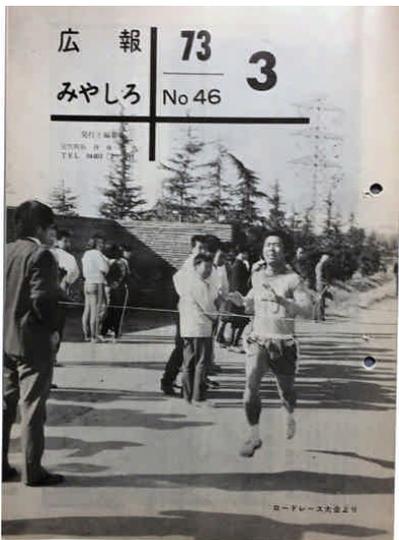
宮代町が誕生してから初めて発行された広報紙で、広報みやしろの前身です。全4ページの白黒印刷となっており、記事には広報発刊についての理由や発行機関である公民館についての説明、町からのお知らせが掲載されている「町だより」というコーナーなどがあります。また、発行日が宮代町誕生から4周年となる記念日になっているのも注目されます。



### 広報みやしろ第5号

昭和 36 年 6 月 20 日

「公民館」から題名が変更された最初の広報です。ページ数は6ページに増え、表紙にはカラーが使用されています。記事の構成に大きな変化はまだありません。編集後記には「公民館では題名がかたすぎはしないかという声を前々から聞いていましたので、いろいろ考えた末今年度表題のように広報みやしろとかえてみました」と理由が記されています。



### 広報みやしろ第46号

昭和 48 年 3 月 1 日発行

表紙に取り上げられる写真が全面になり、タイトルロゴのデザインが大きく変化した時の広報です。表紙は、新成人を祝うために開催された第1回宮代町新春ロードレース大会の写真が飾っています。この頃の広報は総数8ページとなっており、紙面には写真やイラストが多く使用されるようになっています。



### 広報みやしろ第66号

昭和 53 年 1 月 1 日発行

この広報から毎月1回の発行となりました。この頃から、記事の構成がおおよそ規格化されてきています。年明け最初に発行されている広報ですが、表紙に「あけましておめでとうございます」と表記されているだけの簡単な挨拶となっています。

## 2章：広報みやしろから見る町民生活

創刊以来、広報は選挙の告知や町の予算について、公共施設開館の告知や工事のお知らせなどといった町民生活に必要な様々な情報を発信し続けています。また、公民館第4号には青少年の言葉遣いを問題にした記事、広報第39号から41号には13歳未満の血圧についての記事などが町民から投稿されており、社会教育や生活に関する情報を町民から募集していたことがうかがえます。この流れはおおよそ創刊から昭和40年代頃まで続きます。

現在のように電話やインターネットなどが普及していない頃、広報みやしろは町から町民へ向けて情報を発信する手段としてとても重要な役割を担っていました。

この章では、町の財政状況や予算を紹介した記事や役場庁舎やコミュニティーセンター進修館などの公共施設新設に関する記事、美化運動や町章決定などといった生活に関する記事を紹介しています。



### 公民館第4号

昭和35年12月10日発行

表紙に、完成した2代目宮代町庁舎の写真が掲載されています。鉄筋コンクリート2階建てで、現在の進修館四季の丘に建設されました。この号以降、公民館や小学校、消防署などといった施設が完成する度に、広報において写真つきで紹介されます。



### 広報みやしろ第14号

昭和38年11月10日発行

月に1回程度の頻度で町内を巡回していた移動図書館「むさしの号」の記事です。移動図書館は昭和25年に埼玉県浦和図書館を起点に運行を開始し、県内の市町村を巡回しました。広報では、宮代町への巡回日程を掲載するだけでなく、青少年の教育における読書の必要性や、推薦される書籍を紹介しています。町に図書館がなかった頃、この移動図書館は貴重な存在でした。

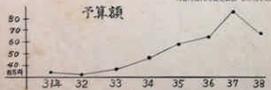
# 広報みやしろ第 12 号

昭和 38 年 6 月 1 日発行

### 町の仕事を財政



#### 予算額



1931年 32年 33年 34年 35年 36年 37年 38年

### グラフでみる宮代

#### 人口



1931年 32年 33年 34年 35年 36年 37年 38年

この町は昭和31年から38年までの町の予算や、人口の推移などをグラフを用いて説明しています。人口は昭和34年から大きく増加し、予算額もそれに比例して増えていることがうかがえます。また、町の予算を教育費で重点的に使用していることについて、「社会の発展のためにはまず立派な人間をつくらなければならない。そのためによい施設を完備しなければならないということが当町の第一目標となっているからです」とあります。

## 1963年に拾う

◎◎ カメラ・メモ ◎◎



有線放送電話開通 (9月)



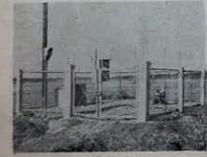
百間小学校々々完成 (8月)



東小学校々々完成 (8月)



久喜町・宮代町衛生組合じん芥焼却施設完成 (7月)



水道第2井戸完成 (7月)



附属行舎完成 (12月)

- 5 -

# 広報みやしろ第 15 号

昭和 38 年 12 月 10 日発行

昭和 38 年に完成した施設を紹介しています。写真には東小学校や百間小学校の校舎、久喜町・宮代町衛生組合じん芥焼却施設（現久喜宮代衛生組合）や水道第2井戸の完成写真、有線放送電話開通などが取り上げられています。これらの写真から、人口増加や衛生問題などに町が積極的に対応している様子と同時に、町が発展し都市化している状況がうかがえます。

## 健康で明るく豊かな 風格ある文化都市の建設

町 総合振興計画を推進



宮代町は都心より四十キロ圏内という地理から人口増加など、町をめぐる社会、経済情勢の急激な変化にさらされています。この町は、昭和31年から38年までの町の予算や、人口の推移などをグラフを用いて説明しています。人口は昭和34年から大きく増加し、予算額もそれに比例して増えていることがうかがえます。また、町の予算を教育費で重点的に使用していることについて、「社会の発展のためにはまず立派な人間をつくらなければならない。そのためによい施設を完備しなければならないということが当町の第一目標となっているからです」とあります。

# 広報宮代第 41 号

昭和 46 年 6 月 1 日発行

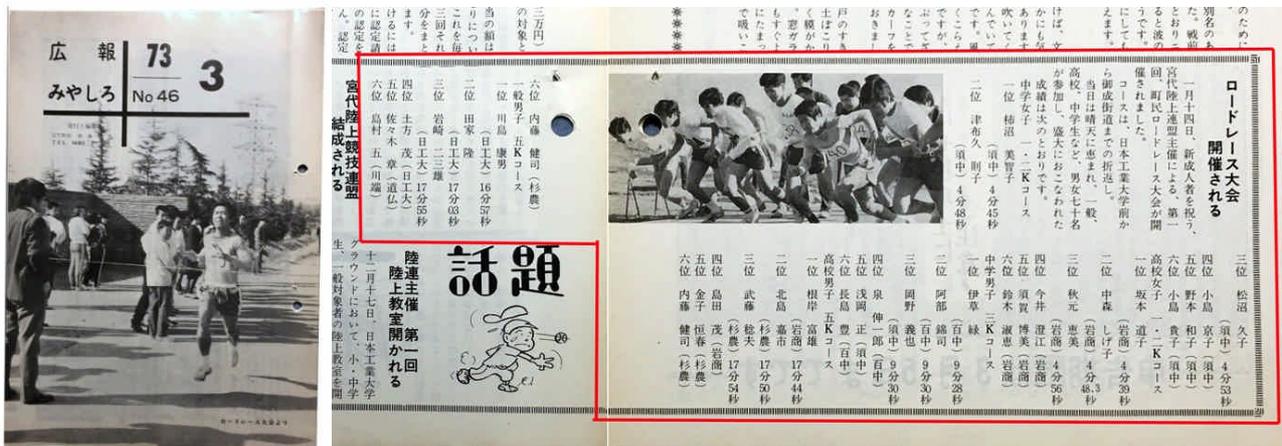
町の総合振興計画を推進するための宮代町開発基本構想を紹介しています。宮代町は、都心からの立地が良いことから人口増加などで町をめぐる社会が急速に変貌し、これに対応するために新しい行政需要が発生し問題が山積みしていました。こうした問題に対応するために、基本構想計画を策定し、将来の目標へ向かって実施していくとあります。

### 3章：広報みやしろから見る宮代の催事

昭和 30 年に宮代町が誕生してから、町では数多くの催事が開催されました。昭和 48 年は新春ロードレース大会、町民体育祭の第 1 回が開催され、昭和 54 年に町民文化祭、昭和 59 年に町民まつり、昭和 60 年には町民綱引大会と、現在も続いている主な催事を、開催のお知らせや写真などと共に紹介しています。

町政施行 30 周年を迎えた昭和 60 年は年間を通して記念事業の特集ページが組まれるなど紙面上でも大きな賑わいを見せています。

ここでは、町で行われた様々な催事についての記事を取り上げ、関連資料と共に紹介しています。



#### 広報みやしろ第 46 号

昭和 48 年 3 月発行

第 1 回町民ロードレース大会を紹介しています。コースは日本工業大学前から日光御成道までの折り返しで、参加者は中学生から一般までの男女 70 名が参加したと記されています。



#### 広報みやしろ第 57 号

昭和 50 年 11 月発行

第 3 回町民体育祭の様子を紹介しています。2人3脚競争、買い物競争などの競技風景が掲載されています。中には「たばこ火つけ競争」という一風変わった競技もおこなわれていたようです。まだ総合運動公園がなかったため、会場は百間中学校グラウンドを利用していました。なお、第 1 回町民体育祭は昭和 48 年に開催され、会場は日本工業大学グラウンドでした。

秋といえ ば文化祭！ みんなで参加し て成功させよう

各種大会

民謡

詩吟

将棋

人形劇

七宝焼

油絵

書道

貼り絵

手芸

版画

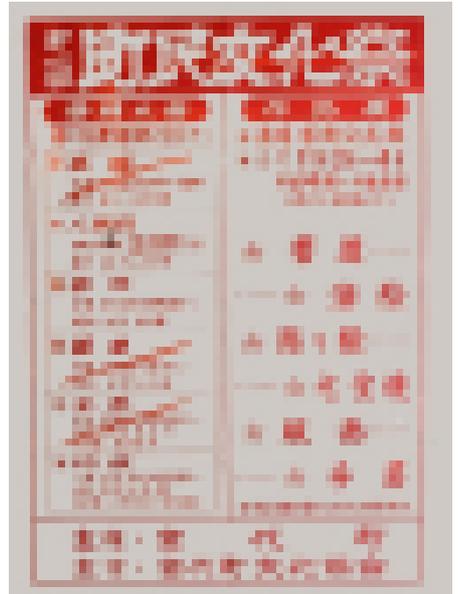
作品展

母親学級を3会場で

初公演ノ子供人形劇

和裁教室の生徒募集

就園奨励費を補助



広報みやしろ第87号

昭和54年11月発行

第1回町民文化祭ポスター

昭和54年11月

第1回町民文化祭を告知しています。この時はまだコミュニティーセンター進修館がなかったため百間公民館を中心会場にして油絵、書道、手芸など様々な催しを行う予定となっています。

町制施行30周年記念 気になる一年

おもしろ情報 いっきに満載

主な記念事業

7 文化財展(展示) 7月16日-22日 運動場大ホール

8 町民列車運行(東武線利用) 10月1日-22日 川越遊藝場

9 記念式典 11月3日 運動場大ホール

10 町民列車運行(東武線利用) 10月1日-22日 川越遊藝場

11 記念式典 11月3日 運動場大ホール

3 町民列車運行(東武線利用) 10月1日-22日 川越遊藝場

町制施行30周年記念式典

山本譲二がやってくる

宮代町の歌が決まる

先人の足跡をさぐる 必見! 貴重な文化財

宮代音頭が決まる

広報みやしろ第156号

昭和60年11月発行

町政施行30周年を記念した事業を紹介しています。30周年を迎える7月から毎月のように記念事業をおこなった様子うかがえます。また、30周年を記念して作成された「宮代音頭」と歌手の山本譲二氏を大きく取り上げています。



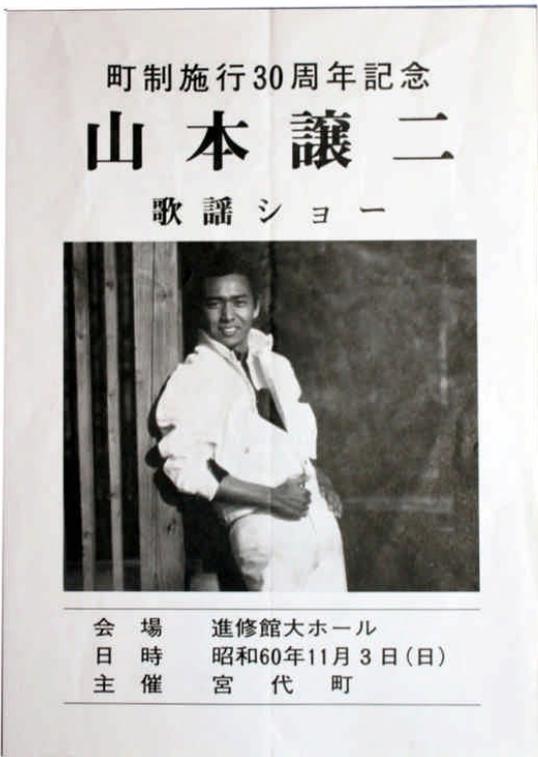
宮代音頭レコード

昭和 60 年



ゆかた

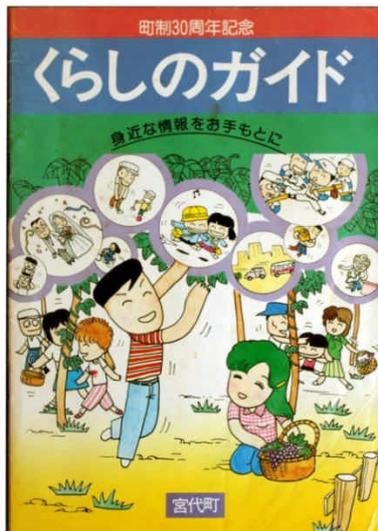
昭和 60 年



宮代町 30 周年記念

山本譲二歌謡ショー プラグラム

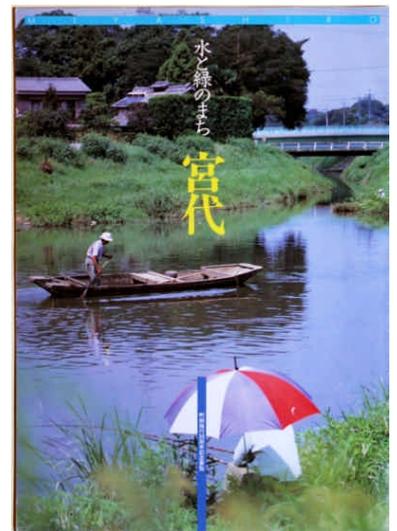
昭和 60 年



町制施行 30 周年記念式典冊子

昭和 60 年 11 月 3 日

島村（繁）家文書



町制施行 30 周年記念要覧

「水と緑のまち 宮代」

昭和 60 年 11 月



宮代町町制施行 30 周年記念スプーン

昭和 60 年 7 月

## 4章：広報みやしろから見る宮代の文化財

宮代町には、建築物、古文書、考古資料といった有形のものや、伝承芸能や技術などの無形のものなどがありますが、これらの中でも歴史的、文化的価値が高いものが文化財となります。これらは長い歴史の中で生まれ、今日まで大切に守り伝えられてきた町民の貴重な財産です。

宮代町における文化財の話題は広報でも度々話題として大きく取り上げられ、昭和36年に県指定文化財となった五社神社や、昭和55年に本格的な発掘調査がおこなわれた前原遺跡の調査情報などが紙面を飾りました。また、宮代町の歴史や文化財を紹介する「町史編さんだより」や「みやしろ再発見」、「みやしろ風土記」などの連載コーナーも設立されました。

この章では、文化財に関する記事に注目し、関係資料と共に紹介しています。



### 広報みやしろ第9号

昭和37年6月発行

昭和36年度に五社神社本殿が県指定文化財となったことを告知する記事です。



### 五社神社本殿写真（本殿脇より）

昭和34年2月21日撮影



### 五社神社本殿写真（斜めより）

昭和34年2月21日撮影



### 五社神社本殿写真（正面より）

昭和34年2月21日撮影

## 広報みやしろ第 37 号

昭和 45 年 5 月発行

「町史編さんだより」というタイトルで庚申塔について紹介しています。町の文化財や歴史をテーマに、解説付きで掲載した記事はこの号が初出です。全6回掲載され、他の号では、町内の地名などの考察がテーマになっています。



## 広報みやしろ第 93 号

昭和 55 年 4 月発行

昭和 55 年 3 月 1 日から昭和 56 年 3 月 31 日まで発掘調査がおこなわれた前原遺跡の調査状況を紹介します。記事によると、土器や石器をはじめ土壌や住居址も検出され始めているとあります。この時の調査は、前原総合グラウンド造成に伴うものでした。

前原遺跡は宮代町の南端にある三方を谷に囲まれた舌状台地上に立地しています。昭和 54 年 11 月 10 日から 12 月 3 日までの試掘調査の結果、縄文時代早期初頭の住居跡などが確認されたため、本格的な発掘調査がおこなわれました。



## 広報みやしろ第 143 号

昭和 59 年 6 月発行

町民へ民具などの文化財の寄贈を呼びかけている記事です。町は急速に都市化が進行し、生活様式の変化と共に日常道具や農具類にも使用されなくなったものがありました。これらは、その地域の生活や歴史を探る上で重要な資料（文化財）となりますので、急速に失われていく状況の中で一つでも多くの文化財を後世に残す取り組みが必要です。表紙で紹介されているのは、座織り機です。

## 町制施行 30 周年記念宮代町文化財展パンフレット

昭和 60 年

町政施行 30 周年の記念事業として開催された文化財展のパンフレットです。文化財展は記念事業の 1 番手として、昭和 60 年 7 月 20 日から 29 日まで進修館大ホールで開催されました。原始から近代までの町内の文化財を一堂に集めた展示です。文化財をテーマとした展示では宮代町でおこなわれた初めての大規模な展示であり、今日の郷土資料館へとつながる展示会です。



